

羽生市立小中学校適正規模・適正配置 に関する基本方針 概要版

1 学校再編成の目的

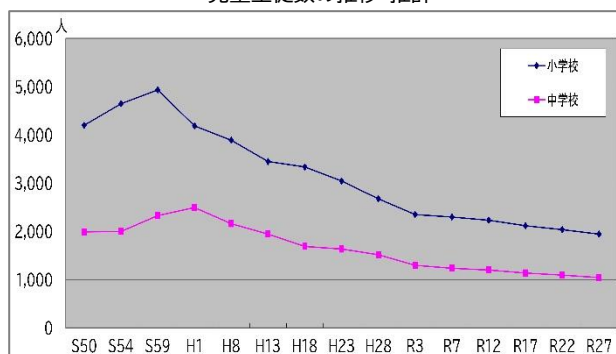
将来の子どもたちにとってよりよい教育環境を整えるため

2 なぜ学校再編成が必要か

(1) 児童生徒数の減少による学校の小規模化

小規模校には「きめ細かな指導ができる」などのメリットがある一方で、「クラス替えができず人間関係が固定化される」等のデメリットがあります。児童生徒数の減少の進行により、デメリットの方が大きくなることが懸念されます。

児童生徒数の推移・推計



子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、お互いに切磋琢磨しながら学力・学習意欲を高め、心と身体を健やかに成長できるようにするためには、一定の集団規模を確保することが必要です。

(2) 学校施設の老朽化の進行

ほとんどの学校が建設してから30年以上経過しており、今後施設の安全と機能の維持に多額の費用がかかることが見込まれます。学校施設の改修サイクルを持続可能なものとし、効率的に教育環境を整備していくことが必要です。

3 学校再編成の基本的な考え方

(1) 望ましい学級数の維持

- すべての小学校でクラス替えが可能な学級数（1学年2学級以上）とします。

(2) 小中一貫教育の推進と義務教育学校の設置

- 小中一貫教育を推進するとともに、将来的に義務教育学校を設置します。

(3) 学校施設の集約

- 再編成の進捗に合わせ、過剰となった施設を廃止し、施設維持に係る財政負担を軽減します。

(案)

4 学校再編成による効果

(1) クラス替えが可能な規模となることで…

- ・児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けることができます。

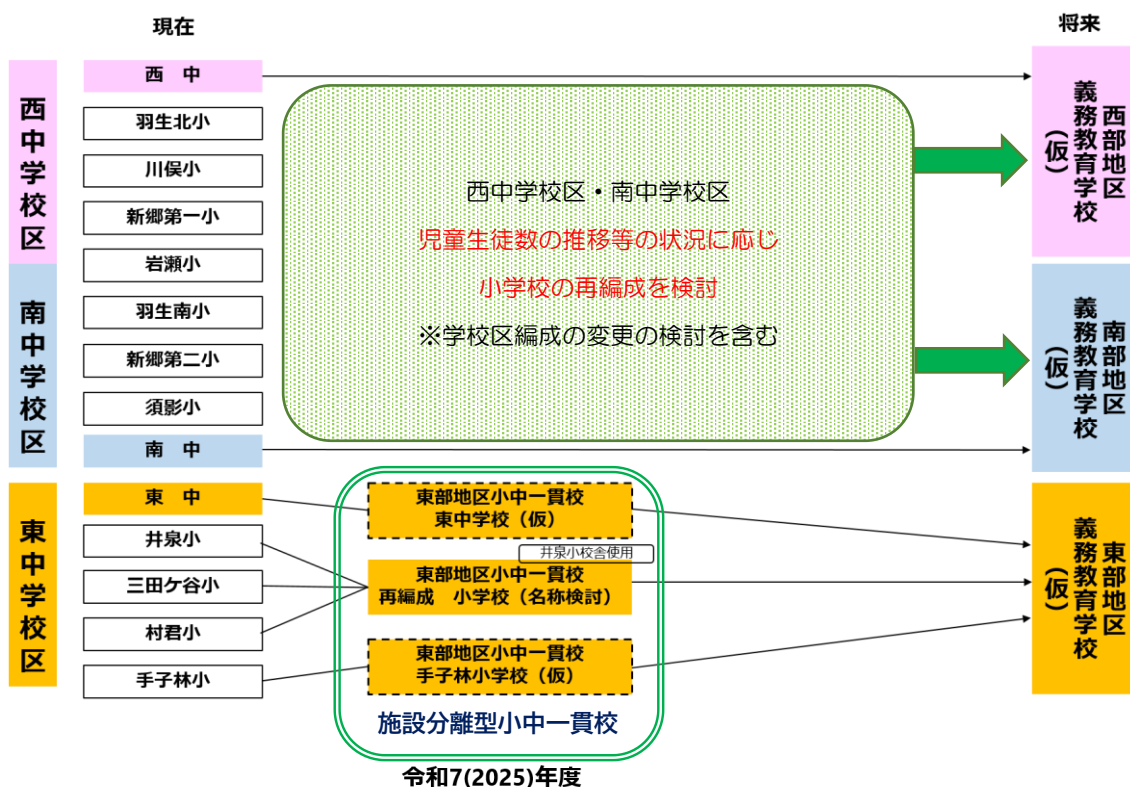
(2) 小中一貫教育となることで…

- ・小中学校9年間の学び（学習面）と育ち（生活面）の連続性を重視することによる児童生徒の学習意欲の向上と、いわゆる「中1ギャップ（子どもたちが小学校から中学校への進学に際し、新しい環境での学習や生活に不応を起こすこと）」の解消により、確かな学力と豊かな心の育成につながります。

(3) 学校施設を集約することで…

- ・学校施設を集約による施設維持管理経費の削減により、限られた予算を再編成後の学校へ投資することでよりよい教育環境を確保することができます。

5 具体的な再編成の計画



学校の再編成は、保護者や地域の皆様との協議のもと進めていきます。

令和 年 月 羽生市教育委員会 教育総務課 詳しくはこちら→

電話：048-561-1121（内線 304） メール：kyousoumu@city.hanyu.lg.jp